

## 令和5年度 第6会玉垣小学校学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年2月22日(木) 16:00～16:52

2 場 所 図書室

3 あいさつ(委員長・学校長)

4 協議事項

(1) 学校関係者評価

Q 不登校ではないかと思われる子が、学校が始まっている時間帯に、公園のブランコで遊んでいる姿を見かけることがある。声をかけたほうがいいのか？それとも静観したほうがいいのか？

A 学校としては声かけてもらっても構わない。ただ、今のご時世、声をかけるだけで不審者扱いされることもあるので、声をかけにくい事情も理解できる。そこで、声をかけてもらうと同時に、学校にも連絡をいただきたい。お教えいただいた状況を学校でも把握したうえで、その子への支援を考えていきたい。また、防犯パトロールのベストやジャンパーを着用したり、みまもり隊の腕章を付けたりした上で、声をかけていただけるとよいかと考える。高圧的な接し方ではなく、何か事情があるのかを尋ねるような接し方で対応していただきたい。

・ 本年度、図書ボランティアには9名(読み聞かせボランティア7名、図書質整

備ボランティア2名)の方に参加いただいた。本年度も、概ね昨年度と同じ程度の回数で、各学年・クラスの読み聞かせに入ってもらうことができた。来年も同様にしていきたいが、ボランティアさんのご都合に合わせてランダムに入ってもらうことになるので、時期によっては、多い時期と少ない時期と差が出ることもある。子どもたちも、読み聞かせを楽しみにしているようなので、来年も人数を増やして、読み聞かせの回数が少しでも増えるように努めていきたい。

Q 以前あったように、大学生のボランティアにも来てもらえると良いと思っているのだが、募集のための具体的方法がわからない。

A 学校で調べて、結果を地域コーディネーターにお伝えしたい。

・ 通学路を、毎朝ほうきで掃いてきれいにするなど、見えないところで学校に協力して下さっている方もみえる。そういった方には、学校から御礼状等をお渡しするなどの取り組みをするとよい。

- ・ 学習支援ボランティアについては、本年度8名のボランティアさんに参加いただいた。ボランティアさんの人数自体については、先生方の希望と比較すると少なかつたのではないかと感じている。ただ、1週間のうち、ボランティア全体で、延べ13時間の活動時間が確保できたので、ボランティアの希望があったクラスには、週に1時間以上はボランティアに入れるようシフトを組んで取り組むことができた。ボランティアさんの都合もあるので、午後からの授業や、ピンポイントのオーダーには応えにくい事情もある。学習ボランティアについても、来年度はさらに人数を増やしていきたいと考えているが、学生ボランティアだけでなく、みまもり隊の方々からの協力も得たいと考えている。そこで、年度初めのみまもり隊の総会で、学習ボランティア募集のPRもしていきたいと考えている。

Q 学習支援ボランティアでは、具体的にどんな活動をしているのか？

A 指導は担任等の教員が行うので、ボランティアさんは、教室の後ろに立っただけで、困っている子を中心に助けていただきたい。算数などの授業だけでなく、図工科や家庭科の授業の中でボランティアをしていただくこともある。図工では、低学年の子どもたちの絵の具道具などの片付けを支援していただいたり、中・高学年の彫刻刀や電動のこぎりを使った授業での補助を行ったりすることもある。また家庭科では、ミシンやアイロンを使った授業で、ボランティアさんに支援をお願いするときもある。ボランティアの活動内容をもっと周知することで、ボランティアの拡充につなげていきたいと考えている。

- ・ 新たにボランティアさんに入ってもらう際には、プライバシー等の守秘義務についてしっかり理解してもらって活動してもらう必要がある。

Q 合同運営協議会のねらいは？

A 危険箇所や通学路についての情報交換をしながら、大事な情報を共有したり意見交流をしたりすることがあげられるだろう。また、9年間を見通して、子どもたちを地域でどうやって育てていくかを考えていくことも大切だと考える。ただ、小学校によっては、校区の地理的事情から別々の中学校へ進学する学校もあるので、実施形態をどのようにしていくかの難しさもある。

- ・ 通学路は中学生も関係してくる。安塚団地の東側では、開発工事が始まってお

り、3メートル道路が新たにできた。その影響で、車も通れるようになった場所もあり、通学路への影響が懸念されている。また、北玉垣では、子供会に通学路について考えてもらっている。さらに、山上池の付近では、道路工事の開発の影響で、舗装された広場があり、子どもたちがスケートボードをするなど

の姿が見られ始めており、今後どのように対応していくか検討事項の一つとなっている。

Q 外国籍や外国にルーツのある子どもたちおよび保護者への指導や支援はどのように行っているのか？

A 国際教室「かけはし」で、担当教員が対象の子どもたちに日本語指導を行っている。保護者については、年1回程度、対象の保護者に交流会を呼びかけているが、なかなか参加者が増えない現状がある。

Q 通信等は翻訳しているのか？

A 通信は、通訳さんたちに翻訳してもらいながら対応している。

5 その他

- ・ 来年度の学校運営協議会 構成員について